

ベートーヴェン作品のみを演奏する  
世界でも例のない究極のカルテット

# ルートヴィヒ 弦楽四重奏団

究極の音楽と言われるベートーヴェン後期弦楽四重奏曲だけでプログラムを組んだ衝撃的なデビュー公演は、2006年年末、東京文化会館小ホールにて行われ、その年の室内楽ファンを話題をさらった。

以降、ルートヴィヒ弦楽四重奏団は専らベートーヴェンを弾く異色の弦楽四重奏団として活動。

メンバーは全員がソリストであり、また室内楽奏者でありオーケストラプレイヤーでもある。

それぞれが活動のフィールドを異にしているが、彼らの集中力から来る高度なアンサンブルと、ソリスト集団ならではの音の迫力、ステージ上で繰り広げられる大胆な音楽的かけひきは他に類を見ない聴き応えである。



ヴァイオリン:長原幸太



ヴァイオリン:小森谷 巧



ヴィオラ:鈴木康浩



チェロ:山本祐ノ介



Ludwin  
String Quartet

CD